

市民活動は
まちの未来を
創造する

パートナー

発行 静岡市清水市民活動センター
指定管理者 特定非営利活動法人
NPOサポート・しみず
〒424-0943 静岡市清水区港町2-1-1
Tel 054-340-1010 Fax 054-351-5530
mail@shimizu-s-center.org
WEB http://shimizu-s-center.org



いっしょに笑えるっていいね!



飛沫防止パーティションを作ってゲームを楽しもう!

スマイル😊コラボ イマココ×YokaYoka

7月4日



自粛が緩和されてきたとはいえ、NPOも従来のような活動ができるようになるのにはまだ時間がかかりそうです。集まること、話し合うことがままならない中、市民活動センターとしてどのようなことができるのか、スタッフ間で話し合いを繰り返しながら事業を進めています。

そんな中、「あなたの笑顔が見たい」と飛沫防止パーティションAmy(笑み)を考案した団体「イマココ」と「アナログゲームを通して笑顔になろう」と活動している「任意

活動団体YokaYoka」に協力をいただき、笑顔をテーマにしたコラボ事業が実現しました。

イマココのサポートでオクシズの木材を組み立てパーティションが完成したら、YokaYokaが準備をしたゲームの開始です。

参加者は、Amyを挟んでボードゲームを楽しみ、顔を合わせて一緒に笑うことの心地よさを実感していました。

リレートーク 港の風 57

「地域まるごと学校」を合言葉に、さまざまな団体や人、施設と積極的に関わりを持っている清水三保第一小学校。地域の一員としての学校のありかたを、先生方の子どもたちへの思いや願いをうかがいました。

静岡市立清水三保第一小学校 校長 酒井 宣幸



● 地域・保護者・学校が、手を取り合って子どもを育てる

合言葉は「地域まるごと学校」

清水三保第一小学校は、児童数254名、10クラスの小規模校です。世界遺産三保松原のすぐそばに位置し、恵まれた自然環境のもと子どもたちが元気に通学しています。

三保地区は古くからの住民の方も多く、人間関係が希薄になったと言われる現代においても、コミュニティがしっかり機能している地域です。本校では、地域とともにある学校を目指し、「地域まるごと学校」というコンセプトのもと、学校運営を行っています。

地域とのさまざまな連携

本校では三保地区のもつ豊かな「財」「材」を生かし、年間を通して、歴史・環境(保全活動)、海(海洋教室)、福祉(施設訪問)など、さまざまな切り口で「探究的な学び」にチャレンジしています。

また、学校の活動以外でも、三保のみなさんにたくさんのご支援をいただいています。毎年秋に開催される「三保の子セカンドスクール」は、自治会とPTAが主体となり行なう3泊4日の通学合宿です。昭和59年から続いており、企画・準備・運営の全てが各種団体のボランティアによって行われています。素晴らしい伝統だと思います。

正解のない問題に挑む力

ますますグローバル化が進み、ICTが大きく社会活動に影響を与えるなど、変化の激しい時代を迎えました。今回のコロナ禍や頻発する大災害など先行きも不透明です。だからこそ、子どもたちには、「たくましく生き抜く力」をつけたいと考えています。それは正解のない問題を解決していく力でもあります。

本校の重点目標は『主体的に学び(活動)へ向かう子』です。受け身ではなく、自分たちで課題を見つけ、「自分ごととして」解決方法を考える力を身につけさせることを目指しています。子どもたちは、三保の素晴らしさにふれ、「地域のために何かできることはないか」と自分ごととして捉え、考え始めています。

▶ 社会科見学に訪れた伝馬町小の6年生を三保第一小の6年生が松原、御穂神社、神の道へご案内。三保の文化の素晴らしさを伝えました。案内することで、自分たちの地域の魅力を再確認！



このコロナ禍での休校の最中においても、高学年が中心となり「三保を元気にしたい」と感染症予防ポスターと手作りの「アマビエ」を作成し、校区内のスーパーや公共施設に掲示しました。

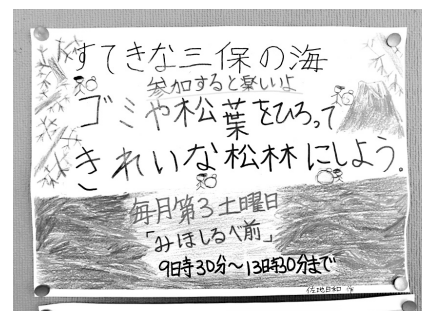
自ら考え、行動を起こす大人に

三保松原は地域の誇り。子どもたちには、将来どこに住んでも、ふるさとを心に活躍してほしい。ふるさとを語れる人になってほしいと願っています。

そして、地域のために行動を起こすことが出来る大人になってくれば、こんなに嬉しいことはありません。

「みほしるべ土曜市場」は、三保住民でもある6年担任の紹介でつながりました。教員も地域の一員です。まさに“地域まるごと学校”ですね。

▶ 手描きの「みほしるべ土曜市場」のポスター。休日の松原保全活動はあくまでも希望者による自由参加ですが、校内放送で参加を呼び掛けるなど、子どもたちは主体的に動いています。



小中一貫コミュニティ・スクールの創設に向けて

文部科学省では、学校が地域住民等と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子供たちを育むコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を推進しています。本校でも、清水三保第二小、清水五中とともに、令和4年度の創設を目指して準備を進めています。

なかでも、学校の方針についてご意見やサポートをいただく運営協議会と学校支援部会は、多種多様な地域団体の代表の方々が委員になってくださっています。

学校のファンを増やしたい

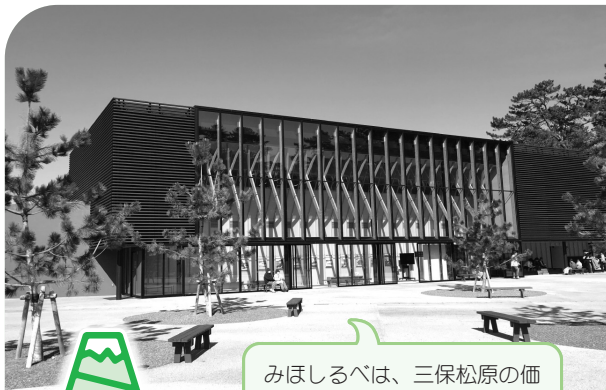
地域と学校が顧客とサービス提供者という関係性にあると、学校運営は困難になります。しかし、学校が我がことになると、問題が生じた時は一緒に解決しようという空気になり、サポート(支援)が増えます。学校のファンやサポーターを増やし、地域全体で子どもを見守り、育てるという三保の伝統をより一層強めたいですね。

地域に生きる子どもを育てるということは、「ふるさとを愛する人を育てる」というかたちで地域に還元できる、ひいては、地域活性化につながると信じています。(R2.7.2取材)

市民活動見てある記

みほしるべ土曜市場

「静岡市三保松原文化創造センターみほしるべ」前広場で、毎月第3土曜日に開かれている『みほしるべ土曜市場』（三保コミュニティデザインLabo主催）は、マルシェと松原保全活動が一緒になった素敵なイベントです。6月20日（土）当日の様子をレポートします。



みほしるべは、三保松原の価値や魅力の発信、観光案内、松原保全活動の拠点など、さまざまな役割を担っています。



東海大翔洋高校吹奏楽部のステージ。コロナで大会が中止になってしまったので、貴重な発表の場となりました。



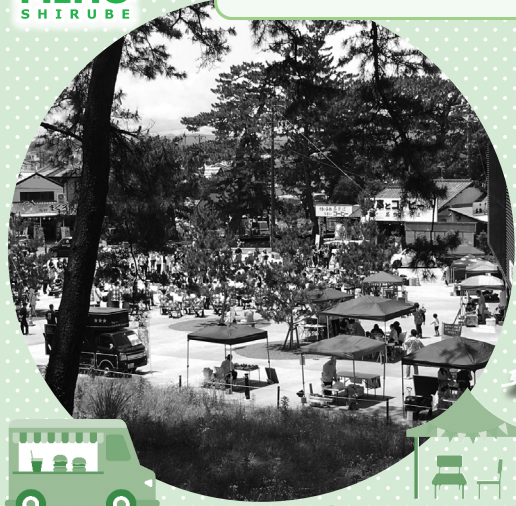
枯れ松葉をゴミ袋6個分集めると、マルシェで使える300円の「松葉通貨」になります。翔洋生も参加し100袋達成!!



なかよし小4トリオだぜ!!



松ぼっくりで、アマビエを作るワークショップもありました。疫病退散を願い、かわいいアマビエさんが誕生♪



ハテナを生み出す カリキュラムマネジメント

清水三保第一小学校 教務主任 佐藤 秀次

本校では“人と繋がる”をコンセプトに、年間カリキュラムを組んでいます。「なんでだろう」とクラスのみんなで考えたい、追究に値する「ハテナ」を生み出す力を育てたいですね。

そのためには、教えることと考えることのバランスが大切だと感じています。教師が課題を投げかけ、子どもたちが練り上げる、その考えるヒントをくれるのが地域。コロナ禍で今年は難しいですが、さまざまな団体の協力のもと活動をおこなう予定です。

12月19日（土）は『三保の昔調べ学習』の成果発表です。是非、聴きにいらしてください！

- 松原清掃活動 (協力：三保松原保存会)
- 紙灯ろう製作 (協力：あかりともる夜実行委員会)
- 三保ウォークラリー (協力：東海大学海洋科学博物館)
- カヌー教室 (協力：静岡体験企画)
- 防災マップ作り (協力：自治会)



素敵なマスクを ありがとう♡

三保コミュニティデザインLaboの染谷さんから、三保一小へ手作りマスクの寄贈がありました。なんと、全校生徒分270枚！

柄も色々で子どもたちも大喜び、お礼の手紙や絵を描いてプレゼントしました♪



NPOワンポイント

貸借対照表の公告をお忘れなく！

この時期、総会を終え所轄庁に書類を提出し一段落、というNPO法人が多いことでしょう。
平成28年の法改正により法務局への資産の変更登記は不要となりましたが、その代わりに貸借対照表の公告が義務付けられ、法人ごとにその方法を定款に記載することになりました。
公告の方法は、掲示場への掲示や団体HP、内閣府ポータルサイトなど団体の定款に記載された通りにおこないます。「今年度の公告はまだ…」という団体は、忘れずに公開しましょう。

センター主催講座のご案内

電話、FAX、Eメール、センター窓口で受け付けています。

8/22(土)

NPO法人の事務のお仕事カレンダー

NPO法人として実施している事業、やりたい事業はそれぞれありますが、そのほかにしなければならない事務仕事もたくさんあります。

1年間の事務の流れとポイントを把握してスケジュールを立てると、事務局運営がスムーズになり、大事な書類の提出漏れもなくなります。

時 間 13:30~16:00

定 員 10名 お申込み順

講 師 センタースタッフ

参加費 300円(資料代)

締切り 8月20日(木)



※法人化して間もない団体、新たに事務担当になった方ぜひご参加ください。

9/5(土)

Wordでパッと作ろう！ チラシ作成講座

団体でチラシ作りを担当している方におススメの講座です。

Wordの操作だけで原稿が作れます。お気軽にご参加ください！

時 間 13:30~15:30

定 員 10名 お申込み順

講 師 センタースタッフ

参加費 無料

持ち物 Microsoft Wordが使える
Windowsパソコン

締切り 8月31日(月)

※事前に、使用する素材のデータをそれぞれのパソコンに入れます。開始20分前にはお越しください。

しみず・コレなあに? その43



清水港にほど近い場所にある清水港湾博物館（フェルケル博物館）は、港を取り巻く歴史や経済について展示を通じて知ることができる落ち着いた雰囲気スポットです。

常設展のほかさまざまな企画展も行われ、訪れる人を楽しませてくれますが、屋外にも興味をそそられる展示品があります。

訪れるたびに気になっていた直径1m弱の円筒形の2段重ねの石もその一つ。思い切って博物館の方に尋ねたところ、「石臼」という答えが返ってきました。

しかし、かつて粉を挽く道具として農家などで使われていた石臼とはサイズが全く違います。実はこれ、「練炭」を作る材料を粉砕するために使用された機材で、成型前に「無煙炭」・「石灰」・「融合剤」を粉砕して混ぜるために使われたそうです。

練炭は昭和の時代には家庭で広く使われていた熱源ですから、この石臼もずいぶん活躍していたのでしょう。今はその役目を終え、博物館のプロムナードにひっそり置かれています。

戸外に何気なく置かれているものも、説明を聞いてみるととても面白く感じられます。

これも博物館の楽しみ方の一つですね。